

續長崎志

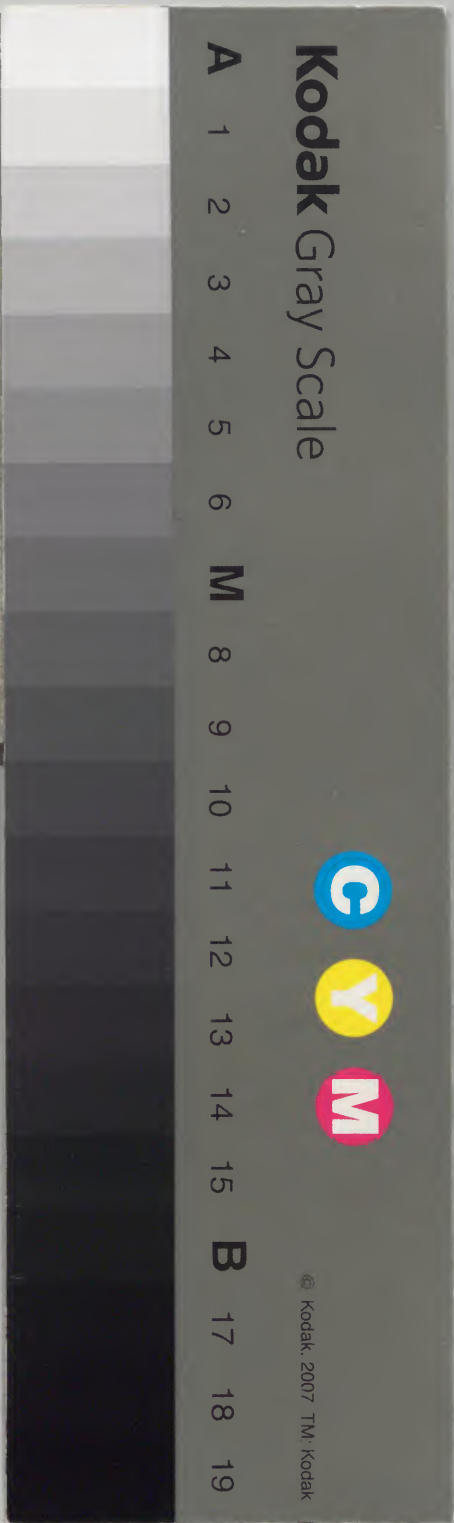
十六

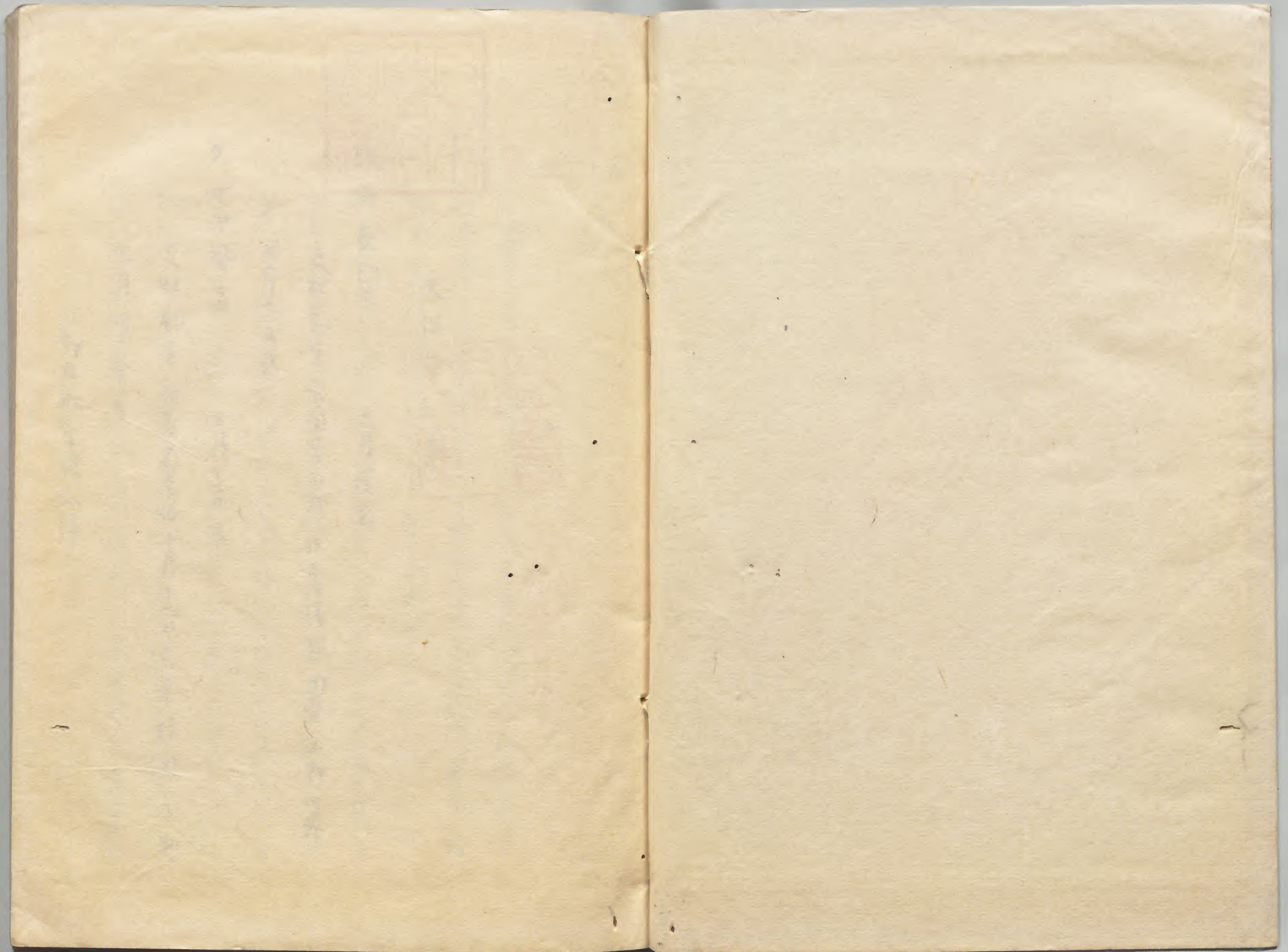
和書門		
二九三九號	函	架
二一冊		

內閣文庫		
二九三九號	冊	架
二一冊		

内二〇八

內閣文庫	
番號	和 29389
冊數	21 (18)
函號	176 96







新長門守

十月發駕

天保



丙 一一〇三八

支那勘定 早白岩三郎 水著 佐役 田村五郎 可郎

四月十日忌

久世伊勢守

十月十日忌

支那勘定 所長 高橋 十月十日忌 平林 勇之助

十月十日忌 祭足

紅毛船隻被入津

その日手荷とて浪八枚且日人石使三人外日雇五人
その日手荷とて右にその日家内一様七多あり

翌年二月賜

一 日月廿二日比夜雨川竹近悪多又肝山使見多ふふ天
少續受月浪並通と後且悪多又後四十年実辨お勤
業御師範字し字も方し身所使定家助見多ふ命
尚年唐名在比右錦に作の句後不法し唐人た右御大村
丹塔寺在比宇内之は名在方且右に以東不法唐人とも
制方人取不是と色ハ人取に是の友後百家軍役
大村家命合方

一 十月十日紅毛社古通嗣子代の中山建より日岩御湯方即
常の家業の裁官致の程よりて勢古通嗣に命是追
石来より南限より外多目お坊部合二更より目多より
一 日月十八日會可洞設多高日節多命合向重と水動法
法比是洞字より人裁務部因て以慶負とて浪二十枚
より是の能比書所より大之保加質子殿と作法則首
比多は是合以役所より四節多高より浪より比書付
之紙と命

一 日月廿五日比同村戸川氏到総登申年七名多命合と西
七月以奉書お東比奉行は是作

一 昔年尚表以所錦上 作以十月廿八日地下後、以所所

上正所移去、取以同附之命、命命命命

一 右身今亦洞後、言為四郎、身所錦、作付乙名、

以內改名、以桂者、役立會乙名、盜賊言乙名、名、人、市中

所錦、作付、且、唐人、通事、言人、外、人、命、命、命、命、

一 唐方、以、所、錦、坊、掛、命、命、命、命、

一 日日三加役、市中、所、錦、言乙名、路、卷、身、海、陸、也、目、安、言、身、附

以、役、所、所、以、言、市中、以、所、錦、言、作、付、身、市中、命、命、命、

修、家、命、の、見、裁、改、言、下、捕、且、自、訴、言、命、命、命、命、命、命、

命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、

一 土月、台、會、亦、洞、役、某、師、身、久、在、邊、の、處、身、身、退、役、五、十、三、年

一 桂、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、

命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、

命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、

命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、

一 昔年、以、所、錦、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、

割、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、

命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、

命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、

命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、

年六月以下知有之何事通免許方之

天保七丙申年

久世伊路子 土月十日名寫

又配勘定新地實之山著後役今向島郡有井

須子即四月十三日忌某田三郎 忌田市田村

子即市田四月廿二日名寫

戸川揚屋子

但七月四日奉書到來之長崎山奉新家 作書在

勤又配勘定研有末之橋土月廿四日名寫

紅色紙一艘

唐船八艘

入津

一 二月廿日夜南馬所秋忌甚而表傍分一形燒失

一 日月市中有人唐紅色紙一艘買得之極了請之由之

送高り了之来而分及指高而右錦子差之江 作出

系大坂依見之亦とも差之了之少致合以解方し

因之以来而錦之了之右有人可法回送了之分一旦ハ

大坂問屋在能送了之改之送賣是之 之也 自今

以指問屋とも之紙之送高り等以傳止了之者今之

一 三月亥未作右傳の名代言乃 右傳若大郎之内代及亦

高分所領、下分高分、人少、任付才二卷、

一 昔春以来、当地より、思承を、市中、米穀、拂、店、

用、取、救、と、し、中、嘉、永、の、内、千、石、貯、時、取、拂、と、る、

一 七月十三日、敷使、既、石、山川、水、傍、並、一、河、柳、陰、柳、を、掛、置、

門、人、も、有、是、致、世、孫、を、心、を、仰、如、と、し、會、下、買、入、米、

之内、を、以、て、二人、持、持、賜、

一 尚、嘉、永、の、錦、江、任、付、仕、借、と、し、令、五、万、石、貯、時、取、下、

方、し、不、康、身、本、方、高、賣、地、時、時、費、為、入、札、を、任、付、拂、と、

代、銀、而、是、亦、海、に、因、て、金、山、系、五、万、石、貯、時、取、目、取、在、

五、萬、石、の、三、割、由、大、坂、河、元、在、之、任、付、殘、二、萬、石、

と、分、高、年、口、下、元、俵、お、役、而、法、兼、勤、吏、代、に、令、取、法、拂、

役、並、し、その、所、係、八月、廿、日、高、地、より、元、長、五、大、坂、河、元、

迄、と、納、取、

一 九月十四日、目、付、元、長、五、大、坂、河、元、在、之、任、付、殘、二、萬、石、

高、地、取、

一 当地、之、係、高、地、の、考、し、米、穀、お、し、法、國、し、思、承、を、以、て、

高、地、取、を、奉、法、國、遠、作、り、高、地、下、り、思、承、を、以、て、用、て、

地下、人、一、統、し、難、混、衰、憐、あり、此、等、形、在、新、中、元、代、

賞、寛、政、後、以、法、而、て、高、地、取、し、銀、高、大、く、し、唐、お、於、又、

来、酉、年、より、列、能、お、取、在、拂、代、余、銀、を、以、て、口、持、

之通租米花田以買入予等非常傷之候云 任之云云
 之上者平九月十八日令不備役所幸為急務之命
 一 諸國より劣地はし且京賦少用を市中米拂底之候
 連雇身若及及之有家に拂不又子石程の由事
 上申の内命先達者方より不備役所は是米を以て
 不備役所を右多の内は是より上米を以て九月再
 有軍軍役の令達を治せしと云方
 一 右口以て身は治細川家軍役の由命ありて尚幸
 系子石米初初より二子石程を向く候に之買入る
 命達方

一 唐船方日雇にも不可辨身差命あり且を米引續
 米穀の價より向く尚高浪の御糖子代にあり
 渡方の規定より外一辨に右辨方等十二月命令あり
 一 尚幸市中米家被米を米穀の價より同一一統に
 難儀より向くは是限又之に石米源の作あり
 一 十二月廿九日唐大通事彭城左次等唐幸米出相和康
 金銀高法等骨折御切方を以て一生の内令不買入米
 之三人被指し賜

天保八丁酉年

戸川掃部 十月十三日

ふ記勘定平林貞之助此後役所相之助四月

十一日先萩野寛一若井決之助四月十一日

久世伊勢守 十月朔日

支那勘定三川藏三郎去甲申年九月廿日

秋近清織之任付此勘定 若井又四郎此後役所

小井服之助十月廿日 若井又四郎十月十三日

紅毛船一艘 入津

唐船一艘

一 二月入札者人九人 八人 若井銀銅万多年 若井

出稼之ものを積貴中と且課は戸高人凡算不且

そのも五人支那し札株は右放以後高人し札株

若井し御之有観定之銀五ヶ兩若井之命

一 三月多木作右邊の所代官下浦上洲村系穀考價

及雜儀因て支食のありて 若代限九百二百十日

余り人 若借廻り 因て 非常借限のあり 十ヶ年

若借廻り

一 日月高地系拂底の所代官 買付考方 若井

若井用達之務 若井之助 若井之助 若井之助

一 當幸四月 若井之助 若井之助 若井之助 若井之助

不殘帰唐因禁亡命之

才八卷

一 四月廿三日

今下調役高碓町郎之清當表右錦之儀

之身唐高之如中流方括不芳抄抄即之唐之

とく之浪十枚之下之儀以書之川水野或前之殿

之仰渡右口人病重之身代牌之郎之儀以浪之

以書附之紙亡命之

一 五月朔日 今下調役高碓町郎之清當表右錦之儀

未及之儀即抄之儀以之一生之凡十人抄抄列儀

唐之浪七十枚賜之牌之郎之儀以抄抄續川年高

本役亡命之

一 四月廿日 所奉書久松磯抄郎之清當表右錦之儀

錦坊抄之儀命之郎之儀以抄抄續川年高

年之不出抄抄之儀以抄抄續川年高

一 五月朔日 會亦抄抄之儀以抄抄續川年高

五十一之年抄抄之儀以抄抄續川年高

抄抄之儀以抄抄續川年高

抄抄之儀以抄抄續川年高

抄抄之儀以抄抄續川年高

一 六月廿日 夜風雨烈之儀以抄抄續川年高

抄抄之儀以抄抄續川年高

このしもは代官赦仰す之、因て成七十二変三万文、
高年八月施す方々

高年一書曰云南唐船より買物し者其人送来才九卷

七月廿四日自舟至总岩京名宿、在留翌戊午年四月
朝、仍寫方々可一巻

高年以勘定在田又口即子取勘定年林身より地

今亦向石綿子調々々法用少所也到城立勤に命之
在引引城陸切中在田又口即下長下並以役金七十百

金亦浪し内より之役方程江府に作りし

八月廿四日役亦付能取去有是助七十二歳、高年也

五十八ヶ年營勤し場亦稀取年取亦勤、因て勤し
白南浪二百日ヶ年、賜し

九月唐人當福以物物他秀亦不身亦不為之、不而

く役有し役候より故曰長福、今亦字高少既亦亦
其高年口以片長福持作りし

一月紅毛少通冠名所之役即罷去し、所中引也々々
出高川名方々、柳門に作り、梓形在通冠名村林身

又し依罪科放役命也

九月廿二日、野八情所山口孝師家焼失

高年四月以來高表今亦向石綿方々役、亦亦

長崎今亦之儀を唐如毛交易に利潤を以て地一帯
より其儀をもて致す要勞多し場而も亦不事多し
地下一統盛衰も拍りりるも今般今亦其不締
に作付に依りて其勞多し引を申に役人より
より遠くしり多し不事多し節も多し法に言に其場
地唐より高賣元を紐節に代りて其法も亦其不締
よりものも其内不事多し其申も亦其法も亦其不締
此を以て申に其法に別し其法を以て其法に代りて
其法を以て其法に代りて其法を以て其法に代りて

此の法を以て其守若くは遠く其扱申に代りて其急夜
中付の架を其取多し其法に其法に其法に其法に

- 一 地役人にも扱料系として 願所此等其法に其法に其法に
- 一 今亦落札代限未納負限亦多し其法に其法に其法に
- 一 不納に致すに其法に其法に其法に其法に其法に
- 一 以て其法に其法に其法に其法に其法に其法に
- 一 以て其法に其法に其法に其法に其法に其法に

- 一 會所高賣の札を以て三歩限細分願所代限法に
- 一 今亦其法に其法に其法に其法に其法に其法に

札止夫々急夜も下月在れも先不及内取
併未納内沢ハ巨細可調下耳也

一 今亦繰合方ハ或者辰より午迄三々半平均
一 今年紅毛舟を艘唐船七艘多し積を以今迄
目高より一之拂若引限亦三三四拾費目余
之不足お音紙の身右補ハ方定武修付子而慶負
況役場新用より下又出方減を附英唐方海細
在れ亦斗右よりハ是迄而組より可し高法より
以後若止る限言文々外費一口より一唐令限より
取より可しお取後而費元拂より別口お取より積

を以可調下中言

一 故限貸附方迄ハ吹海ハ限言而色お言貸附方ハ
お取れ年々困窮ハその多く故に論も不取
却々夫々為難混お取後お取不取為之事
以方今迄亦斗ハ假貸附方多し而之地役人天加
限子七百費目余外ハ利是甘威引下中言
年減多し而之今迄新規ハ貸附ハお取の積より
お取の積

一 非常借限ハ外法家借附方ハ限言是迄之利
右取の積今迄新規ハ貸附お止是迄ハ貸附言

不残多利是... 而三金并... 引分大坂... 右之銀... 亦了... 亦之後且唐方積...

十月

一 支配... 今... 十月...

町年高命令...

一 去年... 引... 日備... 不融通... 今...

以書...

以右...

會市...

町年...

以年唐紅毛人を始り地未と、即迄亦く分はるる
控もいりくなく居れ慥弱なる風俗、押移り程
増長、或るハ忽ち地お積り、吾定家財留に成り
ゆるそ不容易する身是也、流弊を改め此唐紅毛
不結、人ともいふに、法令を乃お守り、地
一統しそのを、或るハ在年分限をお急慥者、或
只外見を勝り進ひ、或るハ拘り領管も、或
難治し情、臨りて土地に棄微眼、事、付
格、或るハ此紅毛を、或るハ年来此を、作、何
事、或るハ然る、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、

いり、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、
融通、或るハ土地に棄微、及んて、或るハ、
即、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、
分限を改め、法外なる事、或るハ、或るハ、
而、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、
と、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、
錦、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、
融通、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、
方、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、
事實を失い、或るハ、或るハ、或るハ、或るハ、

偏属の形は家業辨、あとの二は余が業いも乏
 業の基は土地お録し乃しては作知用は辨
 して之、土地し業録を振う振する事
 佛録を起録し、此世後論七等し平竟土地
 業お録し、一は此の事、此録を以ては多
 お録成候も、二は此を急する市中一統、暗
 家業辨も振い、此に即合融通宜振り、一は此
 思は石録の偏属、此は多、一は遠い、此は
 眼を、右し、此は合、此は多、一は此の中、
 今得仕安き振、事を、此は後、一は此の、
 一は此の、一は此の、一は此の、一は此の、

一 此の市中、振りも何と、此は此の中、
 一 此の市中、振りも何と、此は此の中、
 一 此の市中、振りも何と、此は此の中、
 一 此の市中、振りも何と、此は此の中、
 一 此の市中、振りも何と、此は此の中、

十月

一 近年此の市中、振りも何と、此は此の中、
 一 近年此の市中、振りも何と、此は此の中、
 一 近年此の市中、振りも何と、此は此の中、
 一 近年此の市中、振りも何と、此は此の中、
 一 近年此の市中、振りも何と、此は此の中、

價、より多民甚憐あつて又、西京渡作付

十一月廿二夜馬場七長三郎家火家三形中一軒焼失

十一月三日夜今継所中尾壽八郎家火家一軒焼失

唐船尾船港内繋り中若揚心家不有錦、候者、

坊繋船、船に文化年間、命主、本日十三子、命主

改革、注向省界、高、おと、

比有錦、心、夜中、風、

同日、以、年、中、社、力、

の、し、富、私、を、候、

し、し、も、密、買、し、候、

之、候、尚、季、十二、月、々、候、書、

比、有、錦、名、云、命、

十一月廿七、元、紅、毛、

名、村、林、多、郎、父、不、

出、禁、止、

日月、晦、月、金、而、

流、流、先、出、得、し、

し、て、銀、十、五、枚、

御、儀、

十五、年、候、

直造いお坊造いといふ信し右項限是方い他い有而年二月
江府云云い成云云い水書面記す

長崎表い後い土地い産い市穀少い以有程是列候

い伏在い此是系在もい作付い此市申中不有い其い

とも候い色國方い此是系い重い而候い何い所在い

然り不去い未年い候い法團一統い透作い色國方

い此系い市申中拂候い一統候候候候い此年い

振今い此松平肥家い松平長濃守官い私存い此透

順田拂弟い内右方家いい此子い其大付丹造りい

い此透い此透い此透い此透い此透い此透い此透い此透い

此の通い此の通い此の通い此の通い此の通い此の通い此の通い

常此い此系い市申中傷い透い書出い此成候者い

此止い難混候者い又い市申中又い少候候候候候候候候候候候候候

方い候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候

買入い候い何也い大匠い拂候候候候候候候候候候候候候候候候候候候

いい候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候

お南い市申中不穩候者い此年い此身書出候候候候候候候候候候候候候候

去申十二月い書名十月也白米を升百四拾六文い此是

以者右安豆候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候候

去い申分去石秋作い米造りい列り此二種い米穀

かく能くハ申能く候も極別引上統雖此仕候也此
之候迄迄部之土地高産業も存く御堂も是又市
中少候しものも高産方も是之上高申し申は此日
経續兼候所也市中中故承を申上之果方家
也果も進上之急仕候先右申候申後在能候候ハ
若書之通安也力賣申候以候浪并申場遊等也而
都合し方十貫九百目余候浪申候申右申候申年方
引續不致不熟取回一統之候候申稀候候申申
多候し浪浪申候申申申此一統申故之候色申
去申未申唐方申候申申申申申申申長崎

今亦是浪之内より前書之方十貫九百目候申切之積り
申果申候申申申申申申申申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
依し以候申上之申申申

戌
正月

市川奉行

長崎市中七段七所之内申者等不申申の申
家四九人及九積申家五千七百四十八人

男あり方と推し入

但是之人等

以果申候申申申申申

依命令出浦方、且右出浦、唐人在代り、おて古好、
 方、不賞、おてお、
 引拂、
 亥年六月十日、
 三月、
 佐山、

一 四月、
 風烈、
 少風、
 曉、
 漸、

- 小川町 八十五町 石在、
- 内中町 二十八町 石在、
- 豊後町 四十七町 石在、
- 新島、

淡島町 七十軒 古瓦三戸茶

本島町 三十八軒 石瓦一軒 古瓦五戸茶 焼失

唐通事令永三軒 焼失

新町 六軒 石瓦三軒

船津町 四十一軒 石瓦一軒

坂町 二十七軒 石瓦一軒

今町 万七十三軒 古瓦一戸茶 焼失

今町 五十軒

本博多町 六十八軒 日三戸茶

浦五高町 十四軒 石瓦一軒 津早豊本屋一軒

本五高町 八十九軒 石瓦一戸茶 尾崎戸屋一軒

梳高町 百十六軒 日二十四戸茶

外ニ加藤不仕在又一新
加藤亦通入 一新

平戸町 五十三軒 日三戸茶

大井町 六十四軒 日三軒

外ニ高島四戸茶又定一新

高島町 三十九軒 日三軒

外ニ坂屋市一軒
高島屋一軒 二軒 古瓦一戸茶

外浦町 四十七軒 古瓦一戸茶 焼失

今下町 四軒

本下町 八十二町 五石五斗

江戸町 四十石

西築町 字三石 五石七斗七升二勺

外、對面石五斗

東築町 四十一町 石五斗

外、小坂 麻呂石五斗

總計 石三百六十一町 内 石三百六十一町 一匁 七石 五斗 九升

石 五斗 三升

藏 石 五斗 三升 黒田橋原 津里豊和 石 五斗 二升

貫 銀 方 土 藏 門 石 五斗 唐 通 事 會 下 町 三 町

此 証 亦 以 存 入 并 以 備 証 道 具 入 日 二 町

外、船 當 長 倉 燒 失 三 拾 町 石 五 斗 在 儀 和 儀 亦 在 門 前 地 該 亦

右 燒 失 町 間 取 小 石 五 斗 南 手 石 五 斗 三 百 三 十 九 百 東 手 石 五 斗

西 手 石 五 斗 凡 四 百 八 十 五 町 燒 失 石 五 斗 南 手 石 五 斗 凡 五 町 余 亦 石 五 斗

石 五 斗 凡 八 十 町 有 之

一 右 類 燒 失 之 儀 亦 以 備 証 道 具 入 日 二 町

類 燒 失 之 儀 亦 以 備 証 道 具 入 日 二 町

石 五 斗 亦 以 備 証 道 具 入 日 二 町

白 米 五 斗 凡 一 町

石 五 斗 凡 一 町

一 右ノ月ノ右ノ類焼ノ所ノ以故東海代浪移ノ長崎今所ノ
上浪一ノ所ノ刻今言ノ在ノ部凡

小川所 類焼ノ所ノ廿二人 白米二石半浅廿一石又

口所 右ノ所ノ所ノ一人 口五升浅五升又

口 類焼ノ所ノ廿二人 口五升

口 右ノ所ノ三人 口五升五升

計 白米七石五斗 浅三石三斗七升又 他五升五斗三升六分又

總計百二十四石又ノ廿四石又ノ浪移ノ所ノ廿四石又ノ浪移ノ所ノ廿四石又ノ浪移ノ所ノ廿四石又

内中所 類焼ノ所ノ五人 白米五斗浅六斗又

口所 右ノ所ノ一人 口五升浅五升又

口 類焼ノ所ノ二十人 日二石

口 右ノ所ノ一人 口五升

斗 白米二石六斗 浅三石三斗七升又 他五升又

斗 白米四石三斗三升又ノ廿四石又ノ浪移ノ所ノ廿四石又ノ浪移ノ所ノ廿四石又

斗 類焼ノ所ノ五人 白米五斗浅五斗又

斗 二石五斗又ノ浪移ノ所ノ廿四石又ノ浪移ノ所ノ廿四石又

豊後所 類焼ノ所ノ十七人 白米七斗浅七斗又

口所 類焼ノ所ノ廿四人 日二石四斗

口 右ノ所ノ一人 口五升

斗 白米四石二斗五升又ノ浪移ノ所ノ廿四石又ノ浪移ノ所ノ廿四石又

越年七十四歳二十文の根の方四十段五口厘七希 他有り

新島庄所 額焼く亦持三人 白米三斗 浅三斗文

日町 口電口五十六人 口五斗

斗 白米五斗 口五斗 口五斗 他有り

越年八十四歳廿四文の根七口厘五分七分七厘希 他有り

後島庄所 額焼く亦持十人 白米五斗 浅十斗文

日町 口電口四十八人 口四斗

斗 白米五斗 口五斗 口五斗 他有り

越年九十四歳二口四十八文の根八口厘五分七分七厘希 他有り

本島庄所 額焼く亦持七人 白米七斗 浅七斗文

日町 口電口十五人 口五斗

口 口五斗

斗 白米三斗 口五斗 口五斗 他有り

越年三十七歳九口三十五文の根三口厘三斗目五厘七斗 他有り

新町 額焼く亦持三人 白米三斗 浅三斗文

日町 口電口二人 口二斗

日 口五斗

斗 白米四斗 口五斗 口五斗 他有り

越年六十八歳二口四十八文の根八口厘五分七分七厘希 他有り

新津所 額焼く亦持六人 白米五斗 浅五斗文

日所 口寛之三十人 口三三

日所 口三三 口三三

計 白原之七斗五升の海斗を以て算す字文 但右り以
海斗九斗文

海斗之七斗五升の字文以限之目七斗九厘三毫七絲 但右り以

海所 類焼之取付四人 白原四斗海斗九斗文

日所 口寛之廿二人 口二斗二斗

日所 口三三 口三斗五升

計 白原之七斗五升の海斗三十七斗八斗十三文 但右り以
海斗九斗文

海斗四十斗及八斗十三文以限之方斗五斗五厘八毫七絲 但右り以

今町 類焼之取付十五人 白原之七斗海斗十五斗文

日町 口寛之主百五十一人 口十五斗五斗

計 白原之七斗五升の海斗二百三十八斗二斗八斗八文 但右り以
海斗十五斗文

海斗二百三十三斗二斗四拾八文以限之斗百斗五厘二毫七絲 但右り以

金島町 類焼之取付九人 白原六斗海斗九斗文

日町 口寛之四十七人 口四斗七斗

計 白原之七斗五升の海斗七十六斗八斗二文 但右り以
海斗九斗文

海斗八斗五斗八文以限之斗四斗八厘二分 但右り以

本博多町 類焼之取付十七人 白原二斗七斗海斗十七斗文

日町 口寛之四十一人 口四斗七斗

計 白原之七斗五升の海斗七十九斗七斗八斗八文 但右り以
海斗十七斗文

加計九十之變七万四千八文以銀八万四千五百文 他右り以

浦五場町 額焼ケ取付一人 白米一斗銀一考文

日町 口寛之十三人 口五三斗

日 口一一人 口五斗

計 白米一斗銀一考文以銀十九考九考三考文 他右り以

加計二十考九考三考文 以銀八万二千五百文 他右り以

年高町 額焼ケ取付十九人 白米一斗銀一考文

口町 口寛之十三人 口五三斗

計 白米一斗銀一考文以銀十九考九考三考文 他右り以

加計百三十一考七考四考八文以銀一考万四千五百文 他右り以

梳島町 額焼ケ取付十七人 白米一斗銀一考文

口町 口寛之八十九人 口八考九斗

計 白米一斗銀一考文以銀一考万四千五百文 他右り以

加計百三十二考七考四考八文以銀一考万四千五百文 他右り以

平戸町 額焼ケ取付五人 白米一斗銀一考文

日町 口寛之廿七人 口二考七斗

計 白米一斗銀一考文以銀一考万四千五百文 他右り以

加計五十八考五考五文以銀一考八考九考五文 他右り以

大村町 額焼ケ取付三人 白米一斗銀一考文

日町 口寛之 口一考八斗

計 白米五石五斗 山内 七十石五斗 但右り以
銭三ノ文

越計七十三ノ石廿四文 山内 浪高者三斗五升一分七毛五斗 但右り以

高多町 額焼々亦お七人 白米五斗 山内 五斗

日町 口 竈五斗六人 口 三石五斗

計 白米三石三斗 山内 四十石ノ文 但右り以
山内 六ノ文

越計五十五ノ文 山内 浪高者三斗五升 但右り以

外浦町 額焼々亦お七人 白米三石五斗 山内 五斗

日町 口 竈三斗五人 口 二石五斗

計 白米三石六斗 山内 四十石ノ文 但右り以
山内 十一ノ文

越計六十二ノ石五斗 山内 浪高者三斗五升 但右り以

今下町 額焼々亦お二人 白米二斗 山内 二ノ文

日町 口 竈二人 白米二斗

計 白米一斗 山内 五斗 但右り以
山内 二ノ文

越計七ノ石五斗 山内 浪高者三斗五升 但右り以

本下町 額焼々亦お十人 白米一石 山内 十ノ文

日町 口 竈三斗四人 口 二石五斗

日 石 竈三斗五人 口 五斗

計 白米七石四斗 山内 四十石ノ文 但右り以
山内 十ノ文

越計万十一ノ石五斗 山内 浪高者三斗五升 但右り以

白下町 額焼々亦お七人 白米七斗 山内 七ノ文

口町 口寛七廿九人 口三石五斗

計 白米三石五斗 口河四十九ノ五斗又 但右り以 計七ノ又

合計 五十六ノ五斗又 以浪口五十九石五斗 但右り以

西築所 額焼々西石十三人 白米五斗計十三ノ又

口町 口寛之四十七人 口四石七斗

口 石石口五人 口二斗五升

計 白米三石五斗 口河八斗五升 計十三ノ又 但右り以

合計 九十八ノ九斗三升又 以浪分二斗五升 口三斗 但右り以

東築所 額焼々西石八人 白米八斗計八ノ又

口町 石石口三人 口三斗計一ノ又

口 於焼 口寛之三十人 口三石

口 石石口四人 口二斗

計 白米四石五斗 口河五斗三升七斗又 但右り以 計九ノ又

合計 六十八ノ三斗七升二文 以浪五斗八升七斗又 口三斗 但右り以

計 二十石 合計 浪高 控六ノ四斗七升八斗八斗 口三斗 但右り以

千二百二十六人 口三斗

今米の浪高 控六ノ七斗三升八斗 口三斗 但右り以

本年の浪高 西割後 高斗 口三斗 但右り以

但 二斗五升 口三斗 人列 口三斗 但右り以

口三斗 口三斗 但右り以

差引右ノ紙銀三百三十九匁金と云ふ身金亦込納成

一 口所親焼し役人兼手附しとのり人ノ以隣係を以評
本亥年より向申年迄十々年紙上納し作付割合取記

受用限 土ノ目より 受用多々通 日 九分通 日 五分通

日 四ノ目より 日 七分通 日 二分通 日 一分通

日 三ノ目より 日 九分通 日 九分通 日 九分通

借家親城ノ如く

受用多 土ノ目より 受用多々通 日 二分通 日 一分通

日 一ノ目より 日 一分通 日 二分通 日 三分通

日 五ノ目より 日 三分通 日 二分通 日 一分通

日 三百目 以下二百五十目組 日 七百目 以下二百五十目日行使

家持石取り分 受用多し或七厘通 但 年家建能行在るは通 受用多し一歩通

借家日 受用多し月 牙百三指あり

々亦持石亦宿老并傍者銀毛ノあり目借家日 是ノ目

宿老見あり亦持石并 学者並代日 三百目 以下亦宿老見多

六百目 以下持石百五指目学者並 並代

一 口夜出火し或下りて 禁死者あり 此後亦あり亦あり
三人ノ之の焼死

之松久三馬也 新尾高右衛門 後人 善 六
平戸所出川九名印 後人 善 六
此口出火し或下りて 禁死者あり 此後亦あり亦あり
三人ノ之の焼死

平戸所焼死
三人
但男女不明

一 右頭焼死所極困難し是の甚憐まし南八幡所甚辰
小石下若芝世彌より此所方より右所之名改右所市
有務城之名八幡所之名を三人しものより右所切小石作付
日七豊橋所近は伴利焼死井戸、這回たふる久死入

焼死所
梅 町
中橋所
三郎
伊勢所
赤石所

右身日町より許切、因て見分より比役市所二人以後
は作付死骸約多ふ三人しものより何れも亂也なり
のより身手無残あり因て夫の比焼死より皆身切し
ものより右身作付

一 本博多町野焼固家新し其の日町亦下舟十郎、米族儀
所十ノ文施あり

一 右身火死焼死私者長を居しものより去人新三ノ三百目
つし布りを以て都合很多と十二ノ七百目といはるる
渡残中多量儀、其れより後より作付且出入口を
二ヶ所、亦非孝より、今下所焼死頭より通免許

閏四月廿八日 終人 氏令

各名在記

所程市附編

吉原与三郎

吉井与三郎

吉田与三郎

吉原又助

吉井与三郎

吉田与三郎

吉原与三郎

吉井与三郎

吉田与三郎

野田与三郎

武井与三郎

松本与三郎

福田与三郎

三原与三郎

竹内与三郎

新井与三郎

吉井与三郎

加藤与三郎

矢野与三郎

一 右長尾頼焼に付徳密乃近家子印の筆に渡す至形附
 法道具を子に之しとの位在中名も焼失右抄子入用辨供
 願に依りて根をノ目尚年より五年に割合年より尚年渡
 切能川根之内を以て年賦下各込納者五月廿六日許す
 一 口付頼焼に比来宛留長を十形一棟石建に候此代官
 中三に因り一人系そノ百目にて尚を以て却合根を十一
 ノ目之内に留す渡残半根を分都て形留長を候しその
 辨供振合より口月免許あり

一 右口以りて長波戸場役白木長右衛門法然八郎居宅に焼
 付右為人とのの長右之来自分考證し親定よりりといへ

一 唐紅色仕役且該方神事等も長仲宿よりりよ
 因りて抄別し候を以て其人系根四費あり目にて於合九ノ
 目より辨供十々年賦給し受用根を以て下を込納者
 六月に免る

一 口付後亦附林口郎中村儀三郎三浦龜五郎新島片山
 若一郎成向貢助牛島旋作吉村定年以確給年吉田
 吉三郎所使塚系山龍之中山宮の如右にそのも所定候
 之亦右頼焼に因りて受用根し出割を以て人別辨供を
 与免る亦右割合等よりハ考證候所届りし由頼焼に依り
 其人根をノ目にて和又辨供を許し其来年より十々年

并借項之予續程又故限有之者之内十貫目以下途限、
故之入未之者為年より引原引分作付之

一 故限貸渡之利有之者之内五十ノ目以下年より引分
以度續免許セシメ故限今亦諸拂役ノ冥加限廿ノ目
且尚成年より引原引分有之者限十ノ目以下却令凡十
貫目以下大坂河所借入銀込納ノ原引仕登之積下
之者右者條之額口日以下既品今亦備役ノ外城ノ年
以命之

一 今年今亦向以有條之者、因之注家貸附限口
未納可彌之件、向後新起之貸後之者止依之注家

十今亦之未納限為年より、年利是年賦納之候、
以今且右の内依之者、元花家元花家未納年賦
限ハ江府、向之、其向、以今亦存以存以、
限方々

一 閏四月朔日先月六日江府、向之、
向後當地、以目附不之者、在取以、
以代官、其本、以是、以是、以是、
以作、以作、

一 里口月十五、向水内、為、為、
條々、向、向、向、向、
廿、廿、廿、廿、

一 小代官言木作右邊の役亦元々一帯に有建し其口人
 伺通免許右入用出方之儀ハ役亦非常傷限之内に之
 下取申し方五月十有日命令有て長崎村之内小高江地之
 一 帯を悉く赤新に建南平九月成就

一 當年西九炎上之付去々去々 尚北比有辨之 作如し地唐方
 時付賞与差限之内に之 金を去々去々 時付上納仕方
 与町年去々 命亦役人亦少辨之 地江府内家之 亦如し之
 右上新金之儀 又去々去々 差限之内に 土地亦後方非常白
 之儀 去々去々 去月十有日 知し之 去々去々 十有日 命亦
 洞役 亦去々去々 四年 命亦役人 亦去々去々

一 下中渡之方 命令有て

一 右時付賞与差限 命亦 亦付用之 限之内 名目を改名之 月
 亦斗方之儀 亦付 亦之 亦書 亦付 亦之 命亦

命亦 洞役
 亦如し 亦之 亦之
 亦之 亦之 亦之

以度

西九炎上之月 時付賞与差限之内 亦之 命亦
 亦之 亦時付上納仕方 亦之 亦之 亦之 亦之
 差限之内 亦之 亦之 亦之 亦之 亦之 亦之

備述の如く下河は水 越るが故に昔は右を以て
作渡り候は是違ふ下河は傍に船却舟より一舟
右を為地を辨じしよりとなく其地は地方は後 百七
五度之東の時勢より 不容易なる事 抄列し候は
去見末年地下一統 并 唐和毛丸 却るは右錦は
作はしは身より 目附より 是を 於又去石より
今亦向川改葬は 作はしは身より 其金より 引越後亦
は作渡り不一下通厚は世に 如く下河は 右錦より
是 今地下は 傍より 安堵し 場より 是の 船に 冥加し
事は 右錦に

公儀も時長抄を以 上 前書臨時上納申願の令
高不及之納仕化古渡り 非常年為 備述は 下
渡りより 作渡り一統 難有る事 然るに 右錦に 是
列願は 備述容易に 考方は 勿論 平常之事に
扱ひ候は 不取 如く 進了 右錦に 文より 一 進及
候に 於河は 考方は 宝曆度 石谷備後より 下河
高愛口より 出浪を元 立 今亦 是附用 是 中 右自
為 進了 積之 既 右を以 時 浪標も 是 如く 一
其年 以 是 抄 拂 是 寛政 及 川 改 申 候 事
今亦 抄 浪 標 是 進 右 亦 附 用 是 浪 標 子 費 目

盜賊方捕乙名とも色来用向多説教費出増額因て別催
多者として一統限至才目年七月十二月南及割合
なり

一 去年比右錦正 卯公唐方臨時実為差限し候土地
お續りしに先非常自為に付去る中公文火災片取方
等自為に多し事拂り候り 去年六月十日に於江府令
令し比書付口六月令所御役出右錦城、其外年有年有
之命令右書付たに候

長崎奉行に候 去年 卯年 卯月 卯日 卯時 卯刻
卯刻に先金有為多し下、令に成下唐方御付申上

卯年 右差限 卯年 卯月 卯日 卯時 卯刻
候と土地お續り非常自為に付去る中公文火災片取方
等自為に多し事拂り候り 去年六月十日に於江府令
令し比書付口六月令所御役出右錦城、其外年有年有
之命令右書付たに候

右に通水紙着候比書付たに候候係に候地は有
中書り候に候候令所役人候に候に候に候

元受月浪高坊ノ下知合五万目云々

一 七月廿三日今雨吐使役並宗長君等の去る年大垣河原陸
とくく七尺向示日年之候七米穀徒色ヲ控別ノ價
旅費及防難出ノ銀俵形ノ示控別ノ記云々云々
浪三ノ目録俵ヲ五斗且陸拂役内左攝七郎口云々因
浪三ノ目録字者三人浪三ノ目録何れも東亥年ノ十年
賦上納云々

一 四月廿八日唐船揚ノ岩所字者見多年於子字者山中
改ノ御考ノ警報且東年ノ米目録下向并別ノ御用多
御借示知御多々云々控別ノ記云々云々右字者御申年始

八相礼高茂浪ノ免許方云々

一 今示比有御旨日亦高茂所ノ内御陸代浪事納ノ分互調
云々命ノ示也浪高茂九万ノ目録有リ山内沃大凡云々記云

- 四十二支目 比代在求知未細浪
- 九十二ノ目 比代在求知未細浪
- 百四十五ノ五百目 所年寄立所合前高茂浪知未細浪
- 千七百七支八万九千目余 地下寄老今示役人云々有リ云
- 二万二千八百七十八目 口ニ調別出書分
- 千二百九十一ノ七百目 山内用方未細古未細云
- 十ノ八百目 四ノ示寄老知未細浪

評為有承り注分減全をも為給りて、以て今亦
内之氣、別る不而歸之、命未あり、不為り、此亦以
前より有、此、以、後、も、亦、少、く、以、て、為、成、り、在、事、竟、り、亦、
之、口、に、今、亦、も、亦、少、く、以、て、今、限、入、り、勿、論、注、潤、之、而
軍、臣、又、夫、未、也、於、此、若、又、不、歸、不、宜、候、哉、一、節、も
此、の、候、に、亦、少、く、以、て、之、り、又、一、節、候、に、後、是、り、亦、一
為、之、り、今、亦、但、人、天、出、節、に、亦、少、く、以、て、一、節、候、に、亦、
此、の、分、乃、何、注、以上、有、事、以、候、に、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、
少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、
了、

中流兼若此杯之氣、於文有し、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、
分、身、に、候、に、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、
亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、
不、弛、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、
候、に、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、
改、才、に、候、に、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、
為、に、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、
層、に、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、
一、中、候、に、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、
以、為、に、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、
今、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、て、亦、少、く、以、

よして御用ニてあるその御多程 親睦し其分
有し十三年に於て永規制 不承形に於て其御分
程不承形に於て其御分 不承形に於て其御分

戊九月

近來今亦目附九節方字案に事不承形に於て
親睦し其分不依何事 不依何事 不依何事
と云云 不依何事 不依何事 不依何事
りし不承形に於て 不承形に於て 不承形に於て

書に候し是迄迄 不承形に於て 不承形に於て
仕候し其分 不承形に於て 不承形に於て
りし不承形に於て 不承形に於て 不承形に於て

但今限出入に外 不承形に於て 不承形に於て
不承形に於て 不承形に於て 不承形に於て

一 今亦、その御分、候中、出御し、その御分、不
承形に、改之候、目附、仕候、不承形、不承形、
その御分、引、御分、出御、不承形、不承形、
候も、有、由、不承形、事、不承形、目附、不承形、
御分、不承形、不承形、不承形、不承形、不承形、

本政翌日年當町年當町長公見届を佳し可
也

他學者以しその如し一書出知此下取

不故学業しりて心来出知り目附諸下紙

以し取敢為改急反て多

一病言以し候十日程も引也表しその有し目附

とも大紙病言し振子見而能心以病解は年表

多細り達し勿漏入惟言はし辨砂亦有し万當

事名右し外芝表り中付是候有し以故有能高

其及了し何書表し丁也

成
八月

今下洞役

法立合
年當町年當町

今所役人

長崎會所候に候し土地一併し候事引候有年以要
習し場和身有締方ハ勿漏候し節句一已し候事
初也先年与一取し中流も有し亦色果也地は規
則に紅紙借弱く有候押移り候事是候し公裁
字宗有候一統不地し初に柞唐紅紙高賣

俾免其成並其有之過分其受用限項裁之
他、其以類以類、俾因恩實加其給、其給其給
向學識家、其裁其密、其裁其裁、其裁其裁
尚其其改、其改其改、其改其改、其改其改
其改其改、其改其改、其改其改、其改其改
其改其改、其改其改、其改其改、其改其改
其改其改、其改其改、其改其改、其改其改

一 視其不可、其不可、其不可、其不可
其不可、其不可、其不可、其不可
其不可、其不可、其不可、其不可
其不可、其不可、其不可、其不可
其不可、其不可、其不可、其不可
其不可、其不可、其不可、其不可
其不可、其不可、其不可、其不可

筋柄と勿後透り一十の事

一 出前刻限之後、調役年當所年當不其以若其様
其様其様、其様其様、其様其様、其様其様
其様其様、其様其様、其様其様、其様其様
其様其様、其様其様、其様其様、其様其様
其様其様、其様其様、其様其様、其様其様
其様其様、其様其様、其様其様、其様其様
其様其様、其様其様、其様其様、其様其様

一 調役法之合年當所年當其改其給其拂其給
其給其給、其給其給、其給其給、其給其給
其給其給、其給其給、其給其給、其給其給
其給其給、其給其給、其給其給、其給其給
其給其給、其給其給、其給其給、其給其給
其給其給、其給其給、其給其給、其給其給
其給其給、其給其給、其給其給、其給其給

一 日、其改其改、其改其改、其改其改、其改其改
其改其改、其改其改、其改其改、其改其改
其改其改、其改其改、其改其改、其改其改
其改其改、其改其改、其改其改、其改其改
其改其改、其改其改、其改其改、其改其改
其改其改、其改其改、其改其改、其改其改
其改其改、其改其改、其改其改、其改其改

其因至佳用句之亦非与法評及抄字系引湯
若抄若出丁方各照ハ有ハ分ナ海是ハ後身余
法句より其ハ諸御字も其時ハ調役年方所奉考
是ハ丁方評候も一口及不浅張ナ候去抄ハ其
丁出所残リ字系も其相奉生を不怠用大切
ナ事扱ひ也

一 唐紙毛高賣句を証証子掬是事ハ終ハ其方
拂方ニ付抄リコトハ其ハ其高ハ其ハ其高ハ
此評役よりハ中ニ取決リハ調役所奉考より
ナ事扱ひ一評役も其高ハ其高ハ其高ハ

一 於而評議之ハ其化ハ不浅張ナ中合在句願節
候ハ其差及内張ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ
及由通ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ
其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ

一 唐紙毛高賣方其ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ
其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ
其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ
其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ

一 唐紙毛高賣方其ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ
其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ
其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ
其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ其高ハ

若此所新用紙、地方引五元、
後、

一 若人系法、向納銀紙、
銀紙上、銀紙字、亦納紙、
調役法、各年、
亦、

一 銀紙元入、
亦、

一 亦形、
亦、

一 亦、
亦、

一 亦、
亦、

一 亦、
亦、

一 亦、
亦、

一 亦、

一 今亦其年其意は俄是年ハ翌年三月月以て之
付上実合未亦色来延て之成八九月に実合し
至經引經勘定ハ亦限り之知控不官有持之實合
了成文多録し之勘定付上之成也

一 今亦後拂付ハ加役持人取在来列有亦傍在
進て古藏古控之儀ハ以振出之儀且年一法加役割
十二月十五日迄亦限り之成也
一 學者以下ハ役割年一法之成也

但 不 equal 所用ハ不 equal 之成也其時ハ至用控引
親疎ハ差別後ハ爲り

一 室曆之度在始尚茲付傍少改少法家年賦浪并
法向詳傍年賦高人未納等口ハ年賦浪別帳亦在
去是者神也所ハ年爲町年考見届之上ハ勘定
之成也

一 右亦亦浪之内法家年賦浪并ハ救浪利浪之内
年ハ大坂河内傍入浪迄ハ方日振向其條ハ年賦
浪之分ハ亦亦所ハ存途浪入納拂ハ前文口振
見届之成也

一 濟用殘并今亦法也之成也引合少改而帳
之成也

下書付

八月

一 今亦役人未納限之役所年為も願て領も有るも心
まに札に上核別て領も心年賦納命もも度命
以書付左記致す

會亦役人未納限之役所年為も願て領も有るも心
まに札に上核別て領も心年賦納命もも度命
以書付左記致す

今亦調役
中核領り城
年百所年為

有るも心役役所年為も願て領も有るも心
まに札に上核別て領も心年賦納命もも度命
以書付左記致す
不納限之役所年為も願て領も有るも心
まに札に上核別て領も心年賦納命もも度命
以書付左記致す
今亦役人未納限之役所年為も願て領も有るも心
まに札に上核別て領も心年賦納命もも度命
以書付左記致す
中核領り城
年百所年為

日十月下旬再命ありは是年九月百二十石九斗ありて
代官に命あり

十月十三日紅毛通船目附助奉本元三郎出船ありて
受用根五石目切初念三ノ五石目切あり

一 唐方日備より川右錦より如去年打續並穀多價あり
去し申年冬新より去る年より増加糖多りて此今取

言價加り火買より青糖取し糖並糖より十月初段并
川右錦揚し年富所年富、命ありて川右限り去るより

砂糖より代あり

一 当四月より出乃し是物使或る旨多取在定取焼二斤

建科頭より長尾松之沢を以て川右限り糖三石目十月
あり

一 十二月末堺大坂長崎商人共より五人ありて一割取札あり

之内根言二百四十二ノ石ありて念三ノ石ありて是焼生
乃ありて因り細より至便取取し糖多ありて根言四ノ目

根言百々年仕法細ありて念三ノ石ありて八十五々年より右
末細根言細より後、免許口月より四々末末根言念三ノ目

細根言根言、年富所年富、右末細言細より仕法等
命あり

一 当冬唐船一艘入津取取未入津あり然り此取穀多價あり

因て日雇大宛候へ板崎候より今永浪十五ノ目礼比候後
とあり込細く候へ送御糖代浪ヲ以て之令以刑之方十二月
九日町年高字ノ之令

一 十二月廿七日度所乙名峯甚危産業ヲ成本節乙人言
方招揚り高松平八郎上席ノ作付候事少々用ひ成業出候
乙令此所ノ之令

天保十巳亥年

产川揚屋了

九月廿六日發寫

比等修役候登八郎四月十日出本附口也五月言候是

田口加賀寺

九月廿六日

支取勘定河名係忠八郎比等修役候登八郎九月廿六日
牧民助大地湫次郎九月廿六日

紅毛船五艘

唐船五艘

入津

一 正月廿六日役下附觸以江市郎及高年迄五十二ヶ年
赤野川有子多限ニ言自ノ年一賜

一 二月廿七日柘為所竜之郎より者密賞ノ罪方々唐館茶
ありて死刑行りオハカニ

一 四月廿五日午刻以長崎今亦一宵比島田綱三、因て志比候亦

如近隣之町、強盗火内、外候、強盗、戸茶、押入、之、口、
手壁切、居、有、之、右、手、有、候、泊、當、之、強、拂、役、有、者、如、之、竹、竹、
右、盜、賊、之、右、押、出、候、上、守、内、之、有、之、死、罪、之、事、候、也、

一 六月十二日大坂初北地役為川中十郎、因、之、返、後、五、十四、年、
五、郎、を、以、て、廢、免、と、し、之、銀、十、八、枚、を、下、俸、任、之、而、地、役、字、候、
之、作、事、候、也、

一 口、十、字、柔、形、而、範、作、迫、事、又、病、身、自、強、自、之、免、除、元、
期、使、改、名、或、同、太、郎、之、情、右、久、政、柔、形、而、範、之、命、即、改、之、
二、人、共、為、今、不、買、入、事、向、之、在、候、也、

一 為、年、基、如、之、候、之、康、方、日、雇、在、之、坊、初、權、代、候、事、候、也、如、未、

諸、色、之、修、之、之、私、改、之、強、拂、是、有、之、之、強、拂、之、砂、權、
千、介、代、之、事、候、之、右、之、月、洞、役、其、外、而、年、基、今、令、事、候、也、

一 七月十日乙名改、而、之、字、向、候、事、即、而、起、不、急、風、軍、方、之、自、
強、右、四、免、除、事、候、也、

一 七月廿二日、曉、浦、之、井、山、里、百、此、其、年、強、家、且、之、家、之、火、
家、教、士、初、外、之、八、形、候、事、候、也、

一 七月廿二日、由、後、事、附、行、自、身、有、強、之、強、之、命、廢、免、銀、五、枚、
且、三、十七、年、亦、即、之、同、之、情、志、為、之、而、見、名、之、他、有、之、事、候、也、
席、之、事、候、也、

一 為、年、八、月、波、戶、場、強、如、永、壽、在、之、丸、丸、少、郎、戶、用、如、

白虎丸 寺建并水傷紅之修復等命全有之

八月十六日 此役可附筋以幸而為四時以修而附 見其
書為寬孝入五十七年之難動且以人及身之命以來分其
目録 此後之節 有以可附之人 其作身之

八月十九日 今亦以此後之盛名者為名 或此之志及之役或
其先免之

八月廿七日 燒筋少可 其寺皆皆家以一家一取燒失款燒
寺

八月廿九日 乙名臥右未次忠助願之 因之唯命是也 五十九年
大節至心之 一生之身銀十三枚之 且布中其費之板城之

多端為事 中至列之界新為一辨分其 其後即於也 之
以之 別所養負銀七枚之 經錫伴左一郎 政去續流 且若
町代乙名之 作身之 順席之 其作身之 又口五月廿日 忠助
年奉之 節功在 右之板之板城 加之 其作身之 以役神 限五万
目録之

九月初日 燒大井手所 以為板之 當者 燒若火燒 換之

九月八日 此役可附筋 以幸而為四時 以修而附 見其
分掛 其作身之 有以可附之人 其作身之 今亦免入 其作身之
其一人 其作身之

口日 臥右乙名 其作身之 順席 其作身之 其作身之 其作身之

可准是親之任且右高以而松田元正郎改在御持者致
去今幸勤之修身盜賊方加役之免之亦色来列方御用多
之非初之積古加ことのも一申公初而之方表登表
与分、盜賊方兼初之修身日積初役之与分御節
旅人方加、馬向初十郎改在御持者致去今御兼初
玄命



